



「自治の精神」を大きく掲げ、知・徳・体のバランスを重視する 杉並区立宮前中学校



このシリーズの第8回は、宮前中学校の鳥居利至校長先生からお話を伺いました。

★概要

宮前中学校は、1947年に開校、4年前の2017年に70周年を迎えました。学校での記念式典は行いましたが、同窓会主催の式典はコロナ禍の影響で残念ながら開催できていません。学級数は通常学級9、特別支援学級2で合計11学級、生徒数345名（2021年5月現在）です。隣接する荻窪小学校や久我山小学校卒業の生徒を中心に構成され、それに高井戸小学校、高井戸第四小学校などを卒業した生徒も何人か含まれます。

★宮前中の特色

宮前中の学校教育目標は「人権尊重の精神を踏まえ『自治の精神』を責び、知・徳・体をバランスよく育む」です。この「自治の精神」は何事も生徒が主体的に行事に携わるといふもので、学校生活の活気に繋がっているそうです。

もう一つの特長は制服がないことです。制服がないことで校内に「校則」の概念はほとんどありませんが、生徒会や自治委員が中心となり風紀を維持しています。校則がなくとも集会などでだらしないことはなく、しっかり節度が保たれているのが優れた特色です。最近、荻窪地域区民センター協議会主催の「講談鑑賞会」を宮前中で開いた際も、生徒たちの規律の良さに驚かされました。これも「自治の精神」の効果なのでしょう。

宮前中は、学校経営の基本的方針の中で、「豊かな心の育成」を掲げていますが、背景には不登校の生徒が少なからずいることがあります。対策としては「居場所作り」の取り組みを重視しているそうです。地域の人たちの協力も得て、校内に不登校の生徒の「居場所」をつくり、必ず誰かが付き添って勉強や相談に乗ることで、徐々に教室への復帰を実現しようとしています。

また、杉並区内の区立中学23校のうち6校に「特別支援学級」がありますが、宮前中もその一つです。令和3年度の特別支援学級のE組生徒は14名で、朝礼やクラブ活動などの行事はすべて通常学級の生徒と一緒に分け隔てなく活動しています。

体育祭の全員リレーでは、1学年のリレーにE組が通常学級の2・3年と連合チームで参加し、合唱祭でも通常学級の生徒が加わって参加しているそうです。



「夢未来プロジェクト」で話すバスケットボール選手・小磯典子さん(2020年11月)

★頑張りすぎずに文武両道

宮前中の校長室そばの廊下には、受賞したトロフィーがズラリと

並んでいます。学校創立初期にはハンドボールが強く、当時の卒業生たちは「全国レベルだった」と豪語しています。合唱部もかつて全国レベルで、関東レベルではソフトテニスとか卓球がありました。現在は、全国・関東レベルの部活動はありません。

学力は「区内で真ん中より少し上」と高めを維持しています。保護者も子供たちの進路や学習面に対する思いが強く、学校への期待も大きいそうです。

宮前地区の地域活動については、地域行事そのものが少ないですが、神社の祭りで吹奏楽部が舞台発表したり、ボランティアで地域清掃や境内の清掃活動に参加したりしています。PTA活動については、学校行事や学校生活のサポートを柱に制服リサイクル、PTA日より、PTA広報誌、ブログの作成など学校の縁の下の力持ちとして幅広く活躍しています。



合唱祭(2020年10月)



体育祭の予行演習(2021年6月)

★鳥居校長の思い

鳥居校長の教育歴は、日野市の三沢中学校に始まり、オーストラリアのシドニー日本人学校で3年間の勤務を含め、高井戸中に13年、泉南中に11年と長く、この間、3.11の東北大震災の際には杉並区から派遣された3人の教員の一人として宮城県亘理郡山元町で半年間教員として勤務しました。宮前中の校長には2019年4月に着任、その前は西多摩の瑞穂中で副校長として6年間過ごされ、やんちゃな生徒の生活指導に追われたそうです。宮前中は明るく礼儀正しい生徒が多く、活気のある学校です。宮前中の生徒が満足感、達成感をもって笑顔で卒業式を迎えることができることを願いながら、すべての生徒が尊重され、安心して学びあえる居心地のよい学校を目指す—これが鳥居校長の思いです。

杉並区立宮前中学校

住所:168-0081 東京都杉並区宮前2-12-1 電話:03-3333-8728
ホームページ:www.suginami-school.ed.jp/miyamaechu/